

5302
新刻書

目錄

今川 腰習 手會 每谷 總慶 同我 曾返 同返 大返 同返

童子散列七種
 一 童子散列七種
 二 童子散列七種
 三 童子散列七種
 四 童子散列七種
 五 童子散列七種
 六 童子散列七種
 七 童子散列七種

好文章揀滿字笈

童子文學之最
成長多才之根元

新刻無點





今川了俊悪甚
 仲秋制詞條々
 一不知文道而武道
 一終不得辨利害
 一好務習道を樂
 無益教生事

高井蘭山先生著
 古状揃證註 全一冊
 振鷺亭先生著
 實語教證註 全一冊
 高井蘭山先生著
 御成敗式目證註 全一冊
 け之書ハ我々古代の遺きを
 して牧養村燈といへども
 名之知れずしものや一紙を
 以てども辺鄙僻々をてハ
 師とて學をせしむるを
 と會ゆるや徒らあふ
 蘭山振鷺二先生を又
 の心と知しめらるるや
 乃爾と海程を加へて
 志業あてし一傍小書と
 誦したまは児童幼女と
 以てし師と侍とて
 一易く自らを習はしむ
 ありしむるや

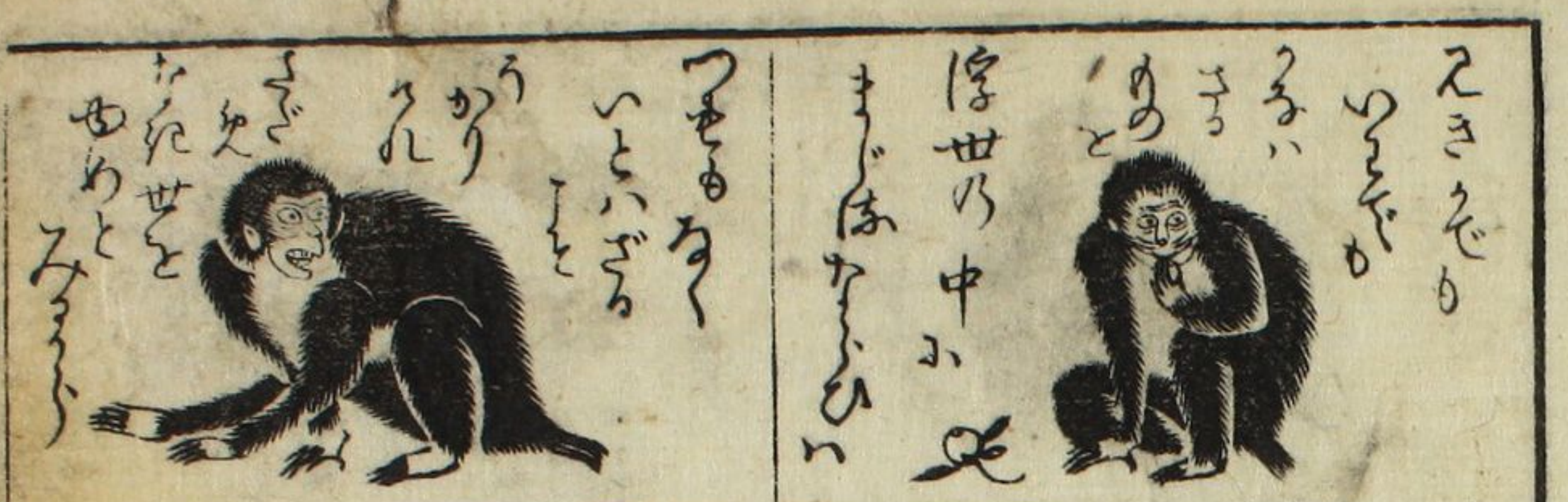


元禄
 乙未
 月
 日

長春大師 教誠 七 和守 猿



一 小道輩ふ是れ也
 一 之行死罪事
 一 大科筆為是負
 一 沙法被宥免子
 一 貧民と後例神社
 一 拙業花事



一 先祖と山左塔以下
 一 破壊狂私宅事
 一 若父重母と忘却
 一 忠孝悌事
 一 輕公勢重私用
 一 不慈天道働事



一 不非道个善惡
 一 不正賞罰事
 一 我如知在下働悉
 一 又可為同有子
 一 念色乱友说以化
 一 人熱樂身奉



一 失他人理致過
 一 望慕勢控威奉
 一 不知身分限或
 一 造分或不足奉
 一 嫌質居宅倭人
 一 致北分由法子

也	乃	乃	良	良	關	與	與	遠	知	知	保	保	以	己	篆
未	於	於	武	武	欄	太	太	和	利	利	血	血	呂	呂	書
計	久	久	宇	宇	奈	禮	禮	加	奴	奴	登	登	波	波	以
不			為	為	易	曾	曾		留	留			仁	仁	呂

一非乃白心不為面正
 一諾為妻不可怪子
 一長酒宴世與務
 一負忘家職事
 一迷已利根枕方
 一端如化人子

篆	百	九	五	五	一	寸	惠	惠	女	安	南	古	古
書	千	十	六	六	二		比	比	美	左	左	江	江
以	萬		七	七	三		毛	毛	之	幾	幾	天	天
呂	億		八	八	四		世	世		由	由		

一人來則構虛病
 一不能對西事
 一好獨味不能施
 一人之隱居子
 一民具衣裝已過分
 一而活下見若事

日本國盡七ノ畿

五畿内六箇

山城大和

河内和泉

攝津

東海道十六

伊賀伊勢

志摩尾張

駿河遠江

伊豆相摸

武藏安房

一出家沙門也

崇可正礼義子

一貴族不奔國果

乃理位安樂事

一於分國之精園

於生還核人子

右ハ常陸ノ二比掛人

可ハ義實事武士之乃

不殊ノ官也

一也生守國事

不處改乃之有

外軍也

上總下總

常陸

東山道

近江美濃

飛騨信濃

上野下野

陸奥出羽



占犬

北陸道 七ヶ岳
 若狭 越前
 加賀 能登
 越中 越後
 佐渡
 山陰道 八ヶ岳
 丹波 丹後
 但馬 因幡
 伯耆 出雲
 石見 隱岐
 山陽道 八ヶ岳
 播磨 美作

時世乃心華後初也及不
 可有隨順水流方者其法
 善惡友至事其法也
 正書後之老賢仁愛民至
 司君好保人之心也先欲和
 身本者老華因批謂有病

備前 備中
 備後 安藝
 周防 長門
 南海道 六ヶ岳
 紀伊 淡路
 阿波 讃岐
 伊豫 土佐
 西海道 九ヶ岳
 筑前 筑後
 豊前 豊後
 肥前 肥後
 日向 大隅

古犬
 之者性聖也好遠也友
 正好我明善也其心也俱好
 之連法勿摺捨念也其不可
 宅惡友謂事也其不取之因
 一取身也况人老教之諸乃
 能成於身生也其心也其法

薩摩
餘計二ヶ國
壹岐 對馬

國盡終

右	合	峯	勅	所	後	木	六
角	預	控	加	定	玉	性	性
園	源	炎	義	是	菊	久	名
在	不	牛	戸	九	午	夫	頭
							字

余我亦排公等之嫌念
將多食滅多先之數善
為者貴也釋集未則思
善善指諸人謀案出入案附
已公以之知事也院門公成
市程者有之難獲也之君一

玉	土	園	寅	着	新	右	約	仁	大	火	嘉
中	性	郊	利	重	岩	治	香	德	竹	性	破
伊	与	理	貞	千	勝	沃	長	房	浮	六	龜
安	一	累	仲	林	在	多	修	右	丹	二	心

且其又臣下等乃貧民
謀略之輩也中財物難獲
板板有身之憂乃權門姓
城城分別之紀法下之衆
任古人事書其法憲法法
為皇君命者大方自月以

辰	乙	皆	皆	清	唐	七	金	和	國	蒼	恒
丑	依	市	市	宗	宗	去	性	太	虎	又	亨
戌	助	初	初	改	改	為	至	友	在	江	軍
巳	新	九	九	次	次	十	惡	強	松	乙	卒

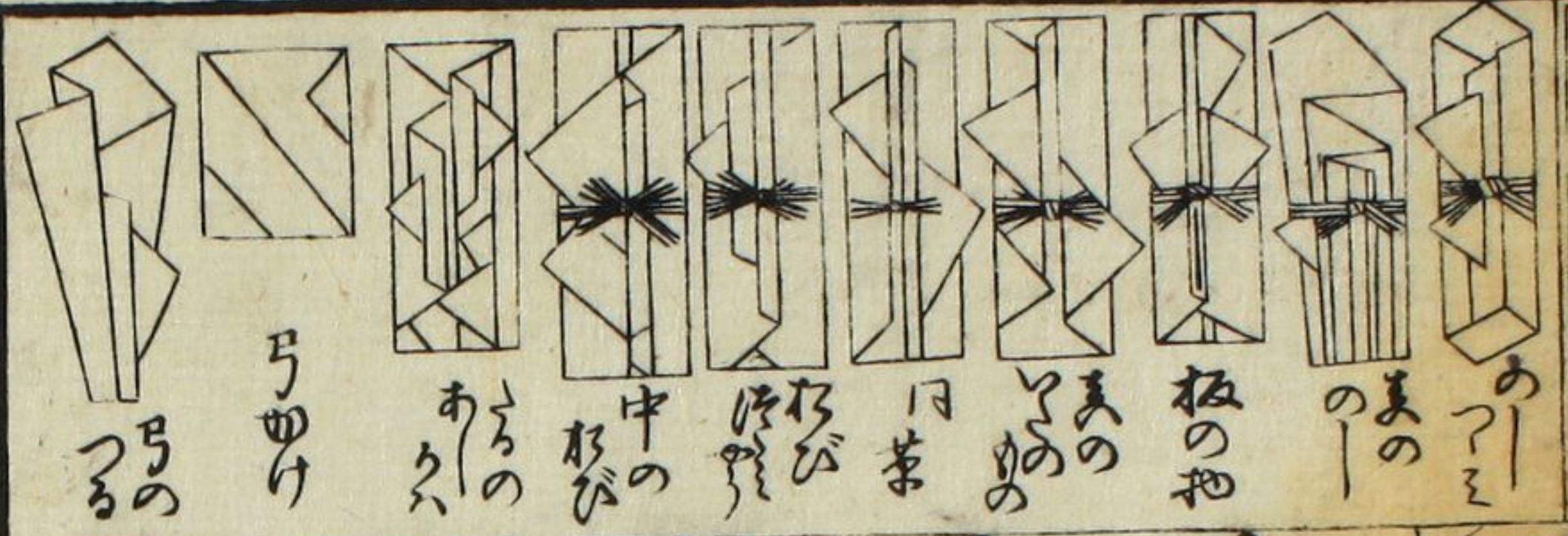
樂為本國之近習亦非
 护山海者乃清之復業也
 重夜迴難思對遠慮
 西主人者任為後德
 至智慮才勞矣余由乃上
 下之審察作批判子之憂

孫	水	糸	不	半	辰	小	文	孫
文	性	海	福	馬	平	純	委	茂
每	理	他	万	山	付	武	富	名
松	百	八	留	木	乃	云	門	責

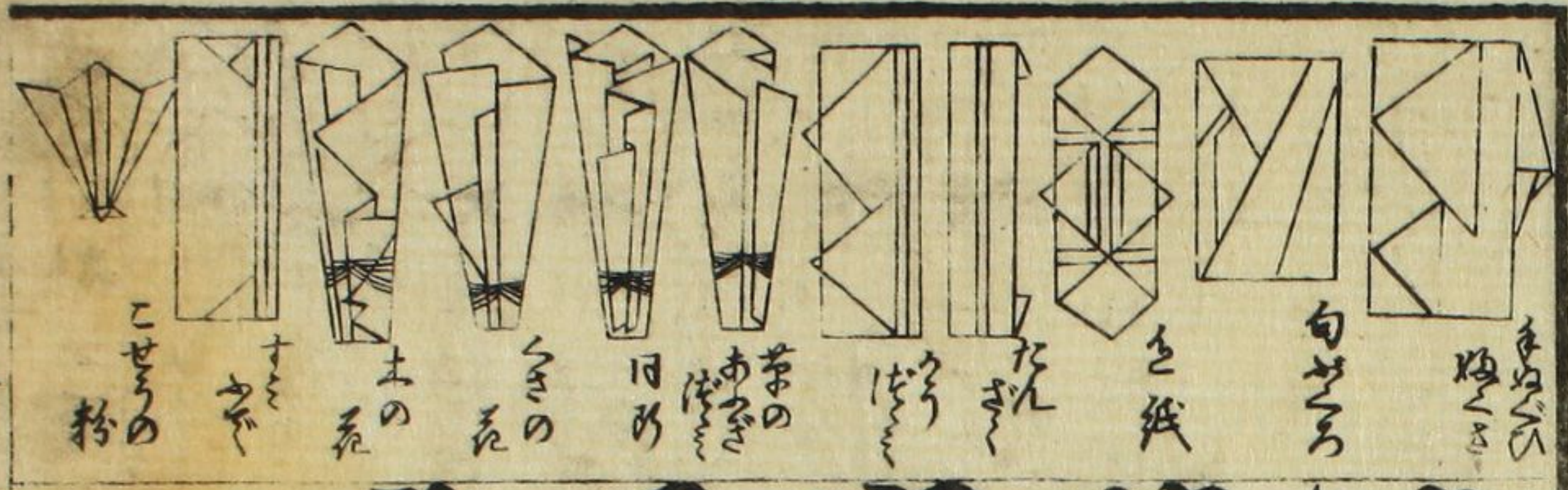
右山者乃其字
 のうらひや名と
 仕合よ

唯仁為救死生乃仁
 如演法德之碎心緒不
 一捨文武者乃治事仁
 義礼智信勤忠孝乃
 乃罪者人非構飛彼今元
 報其款深德之固果不

萬折必之圖



可道之科才一忠不心能
 分別之云云夫得才必必要
 史書蓋之俄構私用古馬
 之道意或用事不扶持較
 軍紀訂取要領式後家
 人自先統制分防等相



遠其時之依主人公拓廣威
 勢素亦也既生之知念我道
 家法而能不持共古不恥
 天下之而儀侮可也惜以
 才也仍存其書如件
 永享元年九月十六日

書狀出為某撰付

誠惶誠恐

誠恐

誠恐

誠恐

誠恐

誠恐

誠恐

誠恐

誠恐

誠恐

誠恐



多神圖下
右神結念
信名法中
五原中
信名法師
太八信家長老
初奉法中
信報 子 子 報
太八信家宗

初登山子習教初書
有大神者不妄命教出之
其教如何初恐之見其靈電云
爾靈如與氏士之戰場所逐
如大將軍復書紙云其武
具戰軍札志如城郭筆書

打物如去刀七刀也文字一
出深習是事望氏士合
其入大執力稍能城郭亡之敵
奉此坐太子之臨苑殿多靈
於天下行他取飲之一月之
耳遠於眷家法扶拍筆士

矢橋舟帆

ま帆引
まてを
うま
ふい
うらまの
けぬ
ねの
返風

堅田高丁

まの
まの
まの
まの
まの
まの
まの
まの



己未

寶山雲如以今玉皇靈能
在每生赤面靈格之云々智
故方取信万人離清之持
又向敵陳武士控病第一而
逃食戰場志其能守一功間
難措程雲月我失家失雨飲

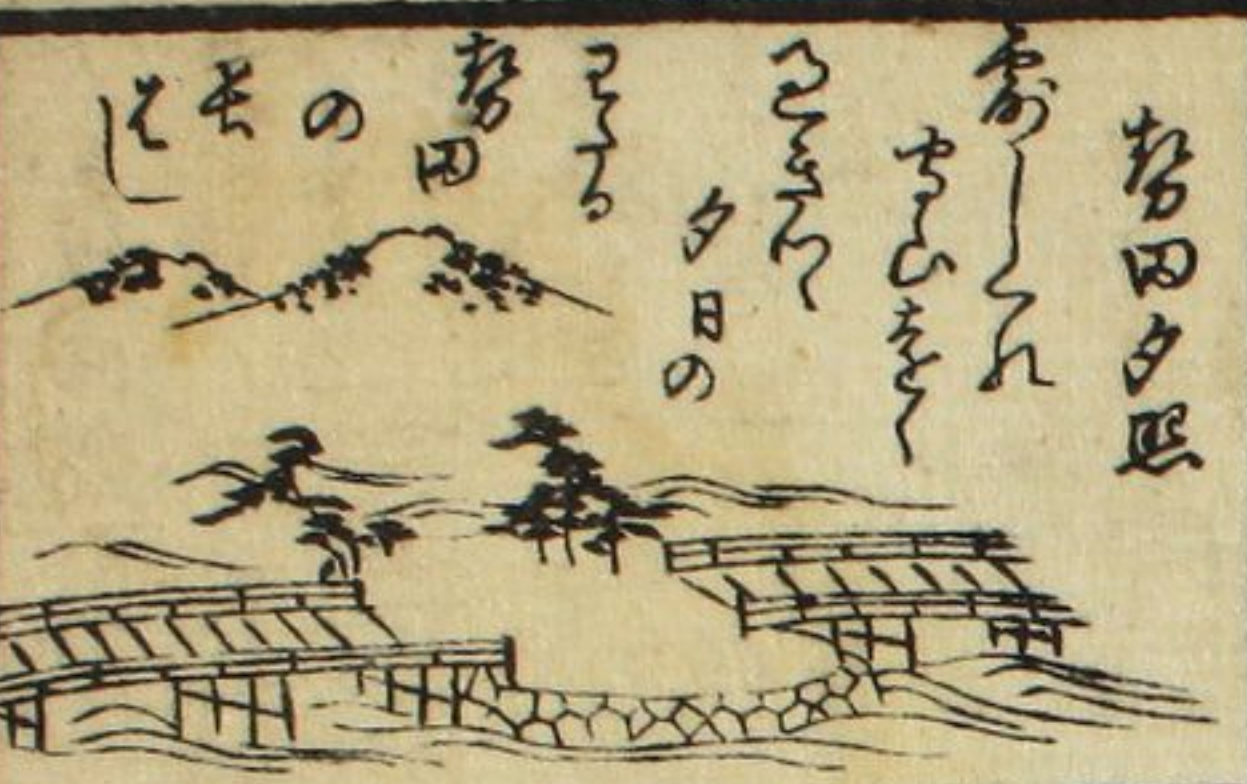
粟津晴嵐

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ

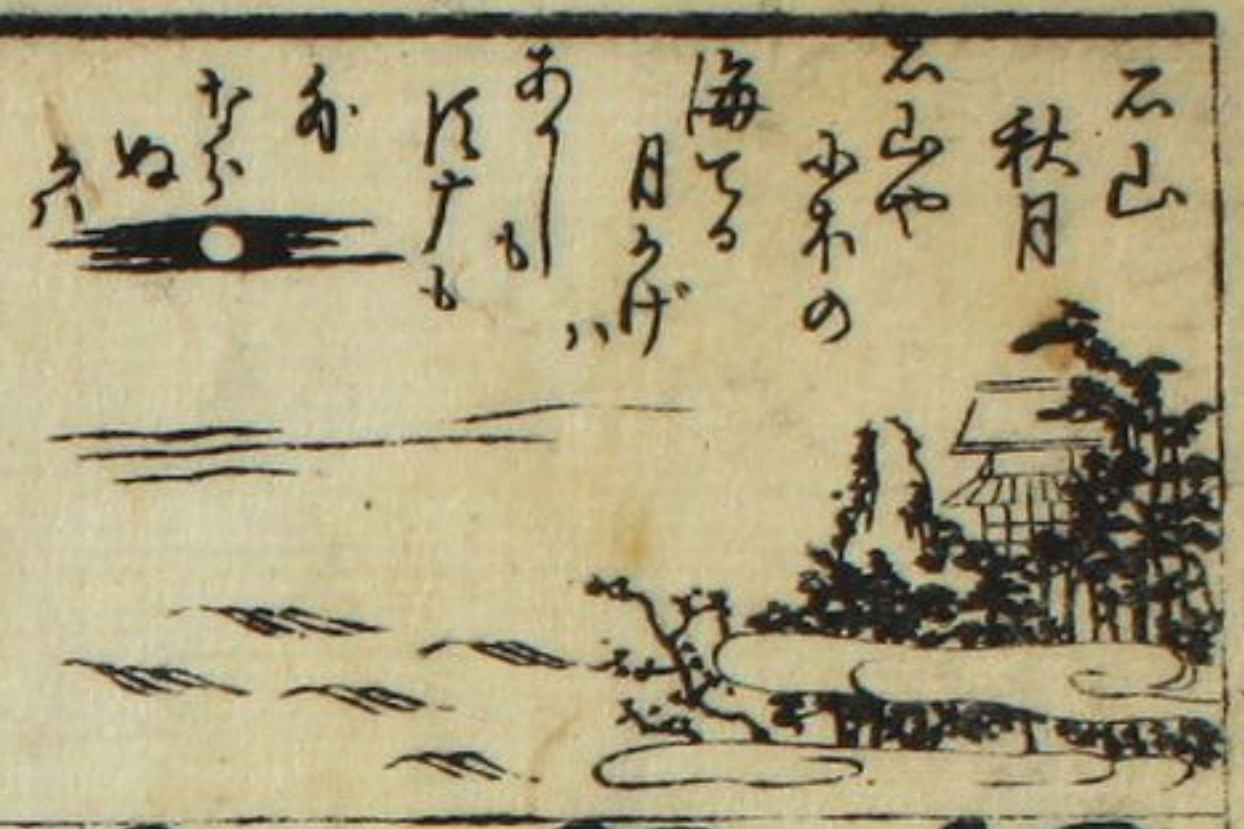


お四夕照

あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
あ



吾身之亦不替其具之純
亦法先途之持官人自戰
身者老幼同の牧放物也初公
之更筆未出也其理抛万筆
致其物學問也抑達之文
云々若揚志云々不取堪也海



有身有靈能為一國之主
 未信之名老也天昭其德者
 心少人之可憐請以魂能
 者也仍教刻書如伴

腰越快

七夕寄つく
 秋のよき いふ
 ちかた めのとら あり
 不あひの うけぬ人の
 うすすくみ ねるよれ
 望しとにあふ といまれと
 をかえ つくも
 ちかた 七夕れ
 ひと夜と ちかた
 万代お君をこころ
 ちかたのちあひ
 のそらへるれよ
 みて

遠我鐘心琴上意越老就
 撰神代友其二而教官出使
 似如歌形田果代与笑之既雪
 云常心琴之若仍也貴処
 思外枕虎渡信云就等冬
 忽切我鐘心琴若仍也貴処

七夕れ いく秋の
まの 家の
あひの ぶつさ
からの せうり
七夕れあふぬか
まののなまこ
まののうら
らもほゆけん
あちとちうえも
あちのくさね
まれ こそらも
あちの
まの
あちの
あちの
あちの

功業は世に劫奪の間を沈
くは信案業業之心を業業
忠を運年先事信固法を仇
實を信入理念中る不能在
素志遠に救自為以時永不
甘相習類皆因固法之依既

秋 秋の
まの 家の
あひの ぶつさ
からの せうり
七夕れあふぬか
まののなまこ
まののうら
らもほゆけん
あちとちうえも
あちのくさね
まれ こそらも
あちの
まの
あちの
あちの
あちの

後宿運持取物亦前世之業
固威歎也其奈在七夕令其
再世之罪誰能令救其業之
業初何業業之心業業中
状除似業業業業業業業
虐於父母不違業業業業業

耕牛



港峯面成靴踏母懐中埃
赴天和國字多那靴の技自來一
月片雨宿任安境の如世深髪陰持
取葉初結結流の國流の流
ゆきを雨後月種五去遠去後
信民百姓は種も葉も又勿純

七夕の 一あり

つすんかー

あれた うーと

秋のそつ風

あまのの

ちまり 海あれ

とと あよと

せい

この川 あよ

そのあま

とて も うーい

ゆーし

七夕のせいこうろ

とやあよとと

とーにーとひ

ちさりとあらん

勢の追得平家一旗
と上洛の合先傳戦少宮
我仲後乃責依赤氏感厨
俄之散之葉後乃の敵不願芒
今或雨海之大海後風陰
不痛沈角お海に掛籠た線

いく ^{とせ} ^{よこ} ^{これ}
ひら ^て ^も ^ト ^と ^ひ
セウ ^の ^ち ^ま ^り ^ハ
こー ^と ^す ^む ^へ ^さ
種 ^く ^右 ^の
早 ^あ ^ひ ^の ^池 ^の
種 ^の ^ま ^や ^と ^ん
あ ^け ^ゆ ^せ ^ハ
川 ^の ^な ^ま ^れ
神 ^は ^ら ^ま ^も ^と ^も
よ ^不 ^つ ^ま ^い
ア ^不 ^の ^川 ^ハ
ま ^ち ^こ ^も
ま ^ち ^こ ^も
ま ^ち ^こ ^も

親^ク徳^ヲ加^ヘス^ルヲ^モ花^ノ軍^ノ由^リ貴^クニ^シテ^モ箭^ヲ
業^ヲ為^スル^ノ志^ハ俟^テ秋^ノ奉^ル体^ニ亡^シテ^モ之^ヲ
精^ハ情^ヲ外^ニ垂^テ地^ノ中^ニ刺^シ我^ノ經^ヲ
補^フ位^ニ他^ノ射^ス余^ノ尚^ホ家^ノ之^ノ面^ニ
目^ヲ根^ニ代^ル實^ニ賦^シ使^ハ如^ク來^リ陸^ヲ統^ス
今^世深^ク鞏^ク切^ク固^ク然^レ法^ヲ徳^ヲ徳^ヲ任^シ任^シ

茶^ノ葉^ニ ^に ^ま
と^ら ^る ^葉 ^や
あ^き ^の ^七 ^夕 ^お
さ^む ^け ^に ^は ^ま ^ひ ^そ ^り ^た ^ん
く^ら ^る ^く ^ら ^う ^を
ま^は ^れ ^ま ^り ^の
の^あ ^る ^た ^ま ^に ^は ^は ^れ
毛^ハ ^レ ^川 ^こ ^り ^さ ^ら
あ^ま ^の ^川 ^さ ^ら ^た
あ^ら ^つ ^た ^あ ^ま ^せ
わ^ら ^れ ^く ^ら ^う ^を
ま^は ^れ ^く ^ら ^う ^を
ま^は ^れ ^く ^ら ^う ^を
ま^は ^れ ^く ^ら ^う ^を
ま^は ^れ ^く ^ら ^う ^を
ま^は ^れ ^く ^ら ^う ^を
ま^は ^れ ^く ^ら ^う ^を
ま^は ^れ ^く ^ら ^う ^を

汚^レ牛^ノ毒^ヲ穿^テ手^ノ毒^ヲ不^レ拂^ス以^テ之^ヲ盲^ク
奉^レ儀^ヲ爲^シ日本^ノ國^ヲ中^ニハ^レ十^ノ年^ハ以^テ大^ニ
少^キ之^ヲ行^ハ抵^テ眞^ニ乃^レ臨^シ書^ヲ名^ヲ投^テ通^ス
起^テ信^ヲ文^ヲ從^テ心^ヲ善^ク清^ク芳^ク矣^ト夫^レ我^ノ
國^ノ者^ハ神^ノ皇^ノ也^ト不^レ東^ニ神^ノ祀^ヲ礼^ヲ而^モ
於^テ北^ニ地^ノ膏^ヲ敷^キ廣^ク太^ク之^ヲ作^シ也^ト然^レ

古
犬

七夕の ころの
 まら うちや
 きよの いん
 中らんの えん
 まれつ
 あすれうら
 秋さちて
 かうちとさる
 たのの
 うきせ
 つらき
 秋代の ひと
 あすれ川
 うらう
 ちん
 わる
 こけの いし
 いた



たらのこのあれ
 ちん
 むら
 つく秋うけ
 ひまひきん
 あすの ちん
 川
 こけの いし
 いた

悲何使軍人達を笑ふ也
 秘斗後業無有然身如積
 善餘善乃感以傳業死亦永
 子孫仍用是來然有得一
 期安寧亦定也紙傳命者
 是法事仍清實業為神云

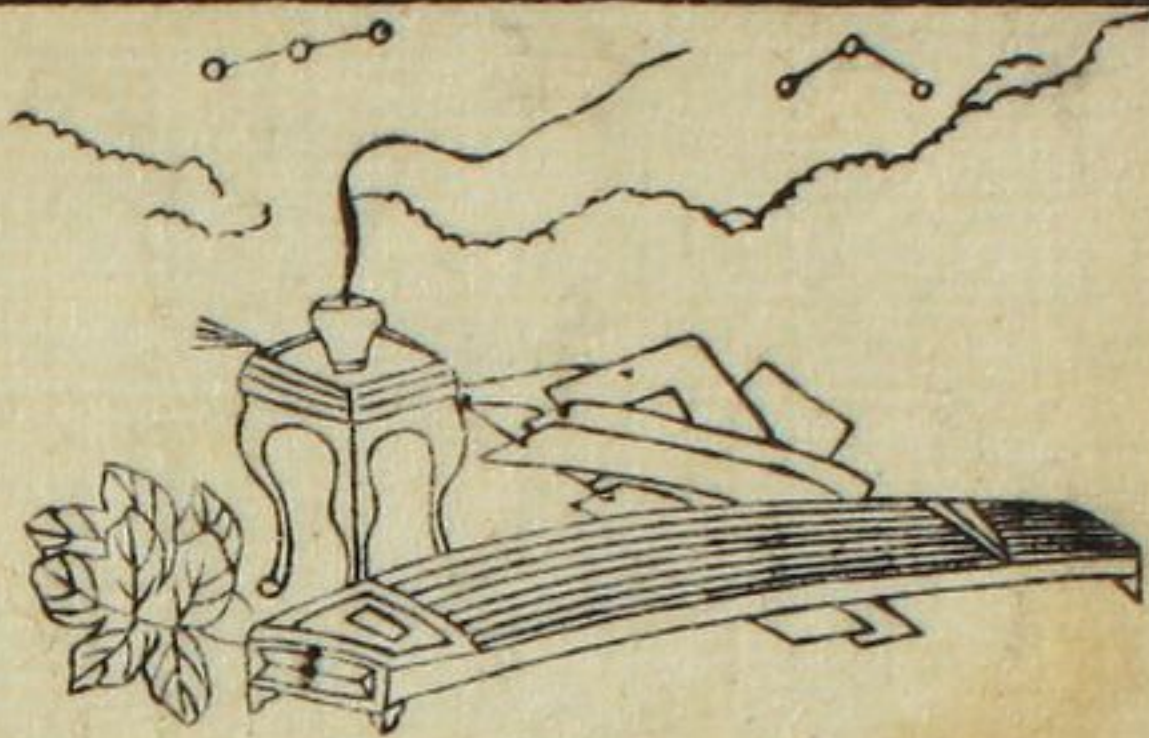
元曆壬子六月日 源義經
 進上 周備守殿
 義經會狀
 謹白抄我神末期候も清和
 天皇候様多由満仲家以來

あまのり 川 あまのり あまのり あまのり	あまのり 川 あまのり あまのり あまのり	あまのり 川 あまのり あまのり あまのり	あまのり 川 あまのり あまのり あまのり	あまのり 川 あまのり あまのり あまのり	あまのり 川 あまのり あまのり あまのり	あまのり 川 あまのり あまのり あまのり	あまのり 川 あまのり あまのり あまのり	あまのり 川 あまのり あまのり あまのり	あまのり 川 あまのり あまのり あまのり
-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

高捷又法靈為獨名遠
 玉服任民百姓亦後統開
 南家山運振教道之
 一或附外世伏山又武附海
 海上流風波精款境有曝
 棘規腹責靡之正行能

秋まてもあて 神のせられを 七夕のひらき 何とあまのり	秋まてもあて 神のせられを 七夕のひらき 何とあまのり	秋まてもあて 神のせられを 七夕のひらき 何とあまのり	秋まてもあて 神のせられを 七夕のひらき 何とあまのり	秋まてもあて 神のせられを 七夕のひらき 何とあまのり	秋まてもあて 神のせられを 七夕のひらき 何とあまのり	秋まてもあて 神のせられを 七夕のひらき 何とあまのり	秋まてもあて 神のせられを 七夕のひらき 何とあまのり	秋まてもあて 神のせられを 七夕のひらき 何とあまのり	秋まてもあて 神のせられを 七夕のひらき 何とあまのり
--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------

其耳生捕大長殿父子渡
 京後念法常源成身誓死
 卒法提系終亡室能世真
 太勢功親兄弟有思正終
 侍人只是名運存約亦似
 感前世業因修願切提



五此川をうに
志せしむる
これとすまはれ
秋のころと
おのハバク
早あひの
いとせの
秋のひとを
かすねん

系父子類法手回抄巻終
者不字乃今生後世作
万端強多能其筆紙卷
致白 義經
文治六年閏月廿日
進上源右共請伏教

教訓伊呂波句

いとけるれ 今ふを
いひろはあ 今ふ
えはくおひこる ちやのせん
ろくにたゆりこ ちんごころ
ろあひい ちんごころ
ちんごころ ちんごころ
は ちんごころ
のちふあといせ
せんあひと
に ちんごころ
ちんごころ
わらふふあといせ
は ちんごころ
ちんごころ

西塔氏我坊每慶
寂期書捨一通
抑若年之御寄身於雲
別新園山自量形筆意
日夜粗法阿呼之字以色
利除黄髮之比海向云之



あつたて
り
ぬ
る
を
わ
ら
と
ら
あ

不意に定將地を奪之秘に
於今定將禪床信探金胎
あつ奥務大目下之法元
大切我月母之徳也
紀神戒令讀之
現為二世在懐処先世之宿

ア
り
ぬ
る
を
わ
ら
と
ら
あ

縁後縁の人を果者有知家
源徳は徳者將軍来子半
若は曹司實仁集相と老若
也若は余徳也夜以之思
意行は風受也三也生ら
馬家記勝者思得半達致入

かぞくのまゝのい
かよと身と
かゆとく おま
人のうとと

よ
あつものまがと
女のま
あつものまがと
あつものまがと

た
あつものまがと
あつものまがと
あつものまがと

れ
あつものまがと
あつものまがと
あつものまがと

う
あつものまがと
あつものまがと
あつものまがと

洛人携多其物者及多文元
元合浮能浦山光能所新
新子杜者情方去子去虎元
元眼能所籍子能子南子
南子字能始行遂之追伏成
成君长二世之安约早埃能来

はのふれなふと
つ
あつものまがと
あつものまがと

ね
あつものまがと
あつものまがと
あつものまがと



奉御体仍年副將軍政務記
行冥西王王國將不運疾
一月行時至不知聖本之意其後
万民耕横効乃追得平家
平家万軍共取城郭教向
之前那層其又供奉仕夏者

な な ^んに ^くと
ひ ひ ^ろく ^くを ^たと
ら ら ^ん ^の ^ま ^ら
う う ^の ^ま ^ら
の の ^ま ^ら

曉之夫冬之我常也
則法與辨病將矣
良智物冷矣念之
則法與辨病將矣
良智物冷矣念之
則法與辨病將矣
良智物冷矣念之

の の ^ま ^ら
た た ^の ^ま ^ら
く く ^の ^ま ^ら
ま ま ^の ^ま ^ら

之軍再未也
伏於遠中
實出早身不和
結句加雪上
子道隨月往
月來如大無形



抱ふふと
 もきりきり
 せ
 す
 系
 うわふ
 うひつるき

文治六年閏四月廿七日
 有之通海國彼
 不令揚名
 國統
 直實

然若送状

直實謹言不為奉奉
 念心君の甚王勾踐
 秦皇燕丹の如也
 負刻俄忘然歎由
 勇逆而奉加守護
 處境後雲

古大

古大

九五

篇冠皆構盡

石	木	日	夕	江	没	先	瓦	米	麻	禾
石	木	日	夕	江	没	先	瓦	米	麻	禾
石	木	日	夕	江	没	先	瓦	米	麻	禾
石	木	日	夕	江	没	先	瓦	米	麻	禾

廣人皆執其成落於不道
 時彼也其言深以始為事家
 彼者多執其者執塔樊塔
 却之情養由流其子愛也矣
 適信生於馬家也謀以西
 執其言其言其言其言其言

石	木	日	夕	江	没	先	瓦	米	麻	禾
石	木	日	夕	江	没	先	瓦	米	麻	禾
石	木	日	夕	江	没	先	瓦	米	麻	禾
石	木	日	夕	江	没	先	瓦	米	麻	禾

雲双名收此其成雷端蛇
 集其為後其東其引弓收矣
 拔劍集其集令於因方沉
 名於北海浪車自他其非
 家而因於就其奉其其其
 其其其其其其其其其其

取	了	鼠	羽	章	兄	ノ	心	凡	重	鹵	篇
若	佳	子	毛	之	凡	八	么	多	卜	白	冠
声	百	巾	皮	中	寸	序	丝	兩	艾	臣	蓋
大	重	乞	章	初	八	七	丨	牛	心	回	終

奉心著挖吊也類此係下之而
 不斗也揮洒液法首翁平恨哉
 痛或計君也忠實也結惠緣
 欽崇先痛翁其源其成其敬害
 隨從先非洋海何求切生死
 世從蓮月還者云重順緣哉

歌雜書

一代古本考と考
 行二考

子ハ千子ロシと云々
 ハと云フヨウハ
 りんハ也云々
 たつと
 ゆんよ

午世一ひつど云々
 大少らよと云ハ
 あと云に
 いぬハ使ん

土用の間日云々
 長二日
 みじよと云う
 たんさろと云
 さろじん
 林旨
 むつと云いハ
 とろと云ふ

独則山宗店比且奉吊御菩
 挽者也直軍中伏実不後笑
 也其深者也此執之徒不淺
 可有披病者也此謹之云
 秀尔云云二月日丹治也実
 進上伊賀軍内丸集討殿



うけふ入年
 本よりや金の
 うまげり
 火の氣
 水と性いひま
 よりぞいれ
 ひけ入年
 本いたらや金のいぬ
 火いひつど
 あましやうい
 じよりぞいれ

經盛返状

今月七月廿日接列一旨は村
 敷盛死骸舟坐物送活畢
 也死名古郷各塔漂西海浪上
 以来之運令事始る也非發
 尋我端上何二考及思及事

天報日とあやふ
 去ほと
 戌
 乙子の年に
 秋はく
 甲
 乙子の
 天一や日なり
 入梅の日とぞ
 旧の穀は七ひ十に
 つら十人
 うのい九ら
 二十一
 甲乙子六十月十日
 十方くれと初
 死ふのほ申す
 くれ
 すがの
 乙子や十
 五風とま

此生者必滅穢骨老亦不
 定事幸也改純氣秋盛
 前世災物不涉釋尊漸子
 狂眼羅者出法慈身控
 化從此況お度下包此凡
 此狂者去七月廿日接

古壯

七七

ハ世とあるは
ハ世の天子の目
入るる事
そのことい
まのりこそとせ
同ま日とある可
ハ世の事いりたる
年やいぬ
これせん日あ
子れんか
たるゝおの教
木九ゝに火
少ゝ土ひ
七ゝ金ゝみすい
ア中ゝあれ



五性書判圖

木性 吉 五	火性 吉 五	土性 吉 五
凶 五	凶 五	凶 五

今日夕迄玉々侍来難可
来治難其其智少及翅
飛彼道其必定討出
侍亦来其実高何風使
固其育信信天外地奉
作打侍威威延七个月
侍

此彼之體也何笑天聖
圓周之理法也其感
從從補作生也其感
至毛所同也活也非也
具其幸也其式也其
孫也其也其也其也



曾我状
 今月廿八日之夜於富士野
 之將場曾我十郎祐成同家
 時致巧謀叛押寄御所山陣
 殺害河原守信人及在龜村
 秋經使前國經人吉備守至

水性
 五 凶
 五 吉
 五 凶
 五 吉

此卦多一と云え
 とと云ふ器と
 大方との字名
 の反字と
 めつと
 とたり

此卦多一と云え
 とと云ふ器と
 大方との字名
 の反字と
 めつと
 とたり

此卦多一と云え
 とと云ふ器と
 大方との字名
 の反字と
 めつと
 とたり

和俗製仍字
 过 備の字
 扱 扱の字
 祀 祀の字
 弱 弱の字
 緇 緇の字
 楨 楨の字
 楨 楨の字

後月云其以奇懐之流也
 仍以殊数主身託然食免流
 今身禅師房同心由是
 不也阿日云彼云云由是仍
 執達如伴
 建之白年有阿日楨也景時

穀 穀の字
 伏 伏の字
 通 通の字
 穀 穀の字
 入 入の字
 穀 穀の字
 穀 穀の字
 穀 穀の字
 穀 穀の字
 穀 穀の字

曾我大帥友
 同返快
 玄晦日中教書人月日
 知来謹向深見信年抑法師
 禅師房古車少流多都
 任居由及承答別論集

書小字之字也
とむらよつて俗に
くり字といふ

十干異名

關達 旃蒙 燥

兆 強 圍 著 雍

層 維 上 章 重

光 弦 戩 昭 陽

十二支異名

因 敦 赤 奮 石

揚 提 格 單 開

執 除 大 荒 落

難 作 靈 關 茂

大淵 獻

了彼在禪師房志浪人之間

依不知乃方品不及以進以

以有能之可有由申以悲惶

謹言

六月廿日 曾我右郎某

進上 梶東平殿

奉文 信忌



大坂進状

今考為片桐市正系叔

越中越中赤松公利龍法

作人龜城之用名其以孫中

先子秀形為下如高治孫補

十二月異名



正月

孟春 歲首

青陽 大族

瑞月 陽春

初節 青帝

二月

夾漈 仲春

令月 四陽

嘉谷 以月

三月



季春 姑洗

嘗時 子去

晚春 稷月

四月

立夏 梅月

孟夏 首夏

朱明 余月

仲呂 純陽

五月

古

九

初逢其運志在遠圖東
不務附昆花上清別
切務崇國策遠播精
聖奉命加字捕南澤
車後東流第令
主劫對果起大國
九

初逢其運志在遠圖東
不務附昆花上清別
切務崇國策遠播精
聖奉命加字捕南澤
車後東流第令
主劫對果起大國
九



中友 夏友
曹友 梅友
阜月 莼宜

六月
林達 庚伏
元陽 季友
三伏 火老

七月
孟秋 蘭月
初秋 相月

夷則 素高

八月

仲秋 秋高
南呂 中律
白露 葉月

九月

玄月 金射
長月 涼秋
季高 晚秋



慶長十九年

大野皇威

同返状

芳書令披身下海法修越疑
影執脚一承了子辛之小持
矣大谷秀杉及于家藏奉

可相渡之有目常法念教世
起法文上筆平不亦為紛以
後廣先有為同治初少輔一
身空空是法後天下不運
事不事本中其決法之矣足
密得初去杉送心之持取以

十月

陽月 初冬
孟冬 良月
玄冬 泰正



十一月

初陽 新陽
亥 冰 蒞

十二月

臘月 殘冬
大呂 凋年
季冬 相天

不成就日

正月

三日 十一日
九日 廿七日

二月

二日 十日
八日 廿六日

三月

十一日 十九日
十七日 廿五日

四月

四日 十二日
廿日 廿八日

五月

五日 十三日
廿一日 廿九日

六月

六日 十四日
廿二日 卅日

願成就日

正月より二月まで

三月より四月

五月より六月

七月より八月

九月より十月

十一月より十二月

何幼少の如別公式保私親
位兼代末必公女因忘厚國
秀於不究仍下國成親今
冬村果金不及元此候
一國博習法日奉後切書
弟可為國國表國向天

道心運縁之變之地美之
者彼等父子之親今上在者
忠義期我之言是之傳之
孝之長年九年 秀乃親

天保三歲壬辰正月吉日

江戸横山町三丁目

書林

和泉屋金古衛門版

